

悠久

第 30 号



河南省洛陽市小浪底 植樹訪中団と地元高校生

本号の内容

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ① 日中友好の連携をはかる | 岡山市日中友好協会 会長 片岡 和 男 |
| ② 日中友好の足跡を訪ね、中国の歴史にふれる旅 | 新見市立千屋小学校 校長 井 上 克 彦 |
| ③ 20回を重ねた「福祉の翼」訪中団 | 社会福祉法人旭川荘 副理事長 仁 木 壯 |
| ④ 感恩の心 | 岡山大学中国人留学生 鮑 静 |
| ⑤ 協議会事務局からのお知らせ（事務局） | |

November
2009

日中友好の連携をはかろう



● NPO岡山市日中友好協会 会長

片岡和男

最初に、岡山県日中教育交流協議会が設立十周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。そして、この十年の間に岡山県と中国との青少年交流が活発となり、日中友好の次代を担う人材の育成に多大な貢献を果たされたことに深甚なる敬意を表します。

私どもの岡山市日中友好協会は日中友好を願う市民が思想信条政党政派を越えて「市民みなで日中友好！」をスローガンに一九八一年に岡山の地に生まれました。爾来、岡山市と友好都市関係にある河南省洛陽市との友好訪問団・視察団の相互訪問や研修生・留学生の相互派遣を実施。又、日常活動では、中国語の普及、中国文化の紹介などの活動をして参りましたが、五年前より日中緑化交流基金の助成により、洛陽市人民対外友好協会をカウンスーパーパートとして黄河沿いの植林事業を行っております。

そして、洛陽市との交流以外に上海市、西安市、北京市など岡山と交流関係にある都市とも相互訪問を行い理解を深めてまいりました。

また、中国の貧困地域での小学校設立や教育

支援、災害に対する支援活動も行ってきました。特に昨年発生した中国四川省大地震の時には、岡山県下の友好団体、留学生を受け入れている大学や留学生、高校生と手を携えて募金活動を展開し、少なからぬ成果を収めることができました。同時に、力を合わせ協力することにより、大きな力を発揮できることを学びました。

そこで、私は、この紙上をお借りして、日中友好活動の連携を図ることをご提案申しあげたいと存じます。それぞれの団体が独自性を発揮し活動することと合せて、大きな行事や目的時には連携していくネットワークです。

これまでの活動の中で、すでに信頼関係が築かれ、実績が積み重ねられていますので、連携は難しくないと思います。

関係各位のご指導とご支援をおねがい申し上げます。

日中友好の伝統あるこの岡山の地で、新しい時代の友好事業を、力を合わせて取組み、次代につないでいこうではありませんか。



岡山県日中教育交流協議会・岡山県日中懇話会共同企画

～日中友好の足跡を訪ね、中国の歴史にふれる旅～

新見市立千屋小学校

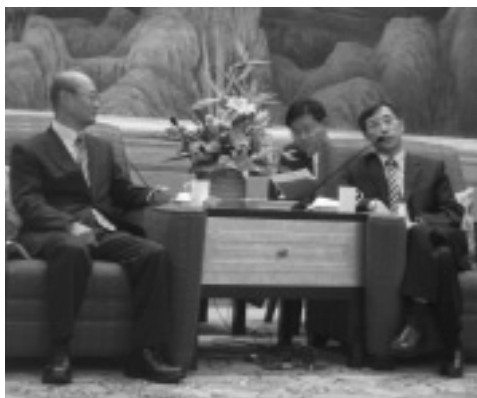
校長 井上 克彦

■はじめに

平成十一年に岡山県日中教育交流協議会が設立されて十周年を迎えたことを記念し、岡山県日中懇話会と共同で、岡山県日中友好促進訪問団が結成されました。岡山県日中教育交流協議会の岡田浩明会長を団長として、平成二十一年九月十九日(土)～二十六日(土)に、岡山県にゆかりの深い、上海、西安、洛陽、北京の四都市を訪問しました。今回、訪問団の一員として参加させていただきましたのでその様子を報告します。

■魯迅と内山完造ゆかりの上海

最初の訪問地は、当協議会が高校生を派遣し、友好交流している上海市。到着後、上海市人民対外友好協会の汪小澍常務副会長をはじめ、六



岡田団長と汪会長の会見の様子



新井高芸連特別部会長のスピーチ

名の方々に迎えられ、虹橋迎賓館で歓迎交流会がありました。汪常務副会長から歓迎の言葉を受け、岡田浩明団長が今までの交流のお礼と今後の交流について話しました。続いて、岡山県高等学校芸術文化連盟新井悟特別部会長が今年度は新型インフルエンザの影響で交流を中止せざるを得なくなり残念であったことや二年後の交流は実現したい事などについて話しました。会見終了後、記念品の交換を行い、大きな円形テーブルに全員が着席し、交流夕食会が行われました。

二日目は、魯迅記念館の訪問。日本に留学した時の様子や直筆の原稿、数多くの資料が立派な記念館に展示してありました。記念館の裏には魯迅の銅像と墓があり、墓には、毛沢東の揮毫による「魯迅先生の墓」と

いう金文字が彫られていました。魯迅が反政府運動を起こし、政府に追われたとき、援助したのが、井原市出身の内山完造でした。内山完造は上海で書店を経営していて魯迅と出会いました。内山書店跡に記念館があり、魯迅との交流の様子が伝えられています。内山書店跡は魯迅記念館のすぐ近くにありました。

続いて、「都市の中にある山水」と呼ばれている名園「豫園」、高さ四百六十八メートルのテレビ塔「東方明珠」を観光し、高さ百十メートルの蘆浦大橋の橋梁から二千年開催の上海万国博覧会の建設中の様子を視察しました。

■吉備真備ゆかりの西安

シルクロードの発源地として、紀元前から秦、漢、随、唐など三千年



魯迅記念館

にわたって都として栄華を誇った「西安」。「西安」は知らなくても「唐の都長安」を知らない日本人はいないといわれている。西安には、遣唐使として有名な「吉備真備」「阿部仲麻呂」「空海」の三人の日本人の碑が建立されています。吉備真備の碑は、都の中心に築かれた城壁の南側に岡山県が一九八六年に建立し、周辺は公園として整備されています。

論語をはじめ、千九十五基の石碑が集められた碑林博物館、三蔵法師の偉業をたたえる大雁塔、秦の始皇帝の権力の大きさを伝える兵馬俑、玄宗皇帝と楊貴妃が過ごした華清池、西安博物院と見学し、幅十二メートルの城壁上の遊歩道を歩きました。西安市人民政府外事弁公室王小鎮第一副主任をはじめ、西安市友好協会の歓迎を受け、友好を深めました。



吉備真備公の碑の前で記念撮影

■岡山市と友好都市の洛陽

西安から洛陽まで、中国五名山の華山を右に、四大河川の黄河を左に見ながら、延々とトウモロコシ畑の広がる高速道路を約六時間走り続けました。邪馬台国の卑弥呼が遣使を送った魏の都があったのも洛陽です。世界四大文明の発祥地、中国の古都である洛陽市と岡山市は一九八一年に友好都市締結を行い、交流が続いています。友好交流会では、洛陽市人民対外友好協会劉典立会長はじめ、多くの方の歓迎を受けました。

龍門石窟は、東大寺大仏のルーツといわれる美しい盧舎那仏をはじめ、約十万体の仏像が伊河畔に一キロメートル続く石灰岩の壁に彫られています。中には盗難に遭い、壊された仏像がたくさんあったのがとても残念



中国三大石窟の一つ龍門石窟



中国最古の仏教寺院「白馬寺」

念でした。石窟は千三百五十二箇所もあります。

三国志の英雄「関羽」を祀っている関帝廟を見学した後、白馬寺を訪れました。白馬寺は白馬に乗った二人の僧が天竺からやってきて最初に中国に仏教を伝えた地で、西暦六十八年に建立された中国最古の寺院です。門前に二頭の白馬像が向かい合っていました。住職の印樂法師がわざわざ私達を迎えて下さいました。鐘楼は岡山市の篤志家が寄進し、増設中の境内の植樹は岡山から樹木医の國忠征美氏が来て指導協力されました。現在百六十名の伝教師がこの寺で修行を行っているそうです。

■郭沫若氏ゆかりの北京

郭沫若氏は、文豪魯迅と並ぶ偉大な文学者であり、歴史学者であり、

社会活動家であった。旧制第六高等学校に留学し、岡山の女性と生活を共にし、晩年は北京で過ごされました。後樂園のタンチョウヅルも郭氏から贈られたものです。晩年を過ごした故宮の近くの住居が記念館となっています。蔡震副館長が館内を案内してくださいました。建物は中国の伝統的な建築様式である四合院となっています。

記念館前には観光用の人力車が数多く並び、私達も胡同（横丁）巡りを楽しんだ。中国は建国六十周年の国慶節を控え、天安門広場でその準備が行われていた。映画「ラストエンペラー」で有名になった故宮（紫禁城）、万里の長城と世界遺産を堪能し、明の十三陵の一つ定陵を訪問して日中友好の旅を終えました。



郭沫若記念館と蔡副館長（左から二人目）

20回を重ねた「福祉の翼」訪中団 ～岡山と上海の友好交流～

社会福祉法人旭川荘

副理事長 仁木 壯

はじめに

二〇〇九年八月二十五日から二十八日まで、江草安彦名誉団長（社会福祉法人旭川荘名誉理事長）のもと、第二十回福祉の翼訪中団（一〇六名）の団長として、上海市を訪れ、児童福祉施設や高齢者施設で、歌や踊り、寸劇等を通じて心のふれあう交流をするともに、上海博物館で中国四千年の歴史に触れ、バリアフリー化された繁華街「南京路」を散策しました。リニアモーターカーにも乗車し、来年開催される上海万国博覧会の準備の様子も見学することができました。

そこで、これまで「福祉の翼」の実施に関してご支援いただいた関係団体の皆様に深く感謝しつつ、今回の訪中について紹介するとともに、これまでの二十回の歴史を簡単に振り返り、福祉の翼の意義などについても触れたいと思います。

二十五年の交流の歴史



バリアフリーの南京路（第14回）

一九八五年、上海市の王希孟衛生局長（上海紅十字会長）が、魯昭慶民政局副局長と共に、上海市医療福祉視察団を率いて旭川荘を訪問されました。翌年には、上海市から二名の医療関係



お元気で（第19回）

の研修生が、その翌年には二名の福祉関係の研修生が、それぞれ半年間旭川荘に滞在し、医療福祉の実践に触れるとともに、リハビリテーションや介護の技術、福祉の理念などを研修されました。それを契機として、毎年のように上海市から研修生が旭川荘を訪れ、高齢者や重度障害者の介護やリハビリテーションについて研修を受けられるようになりました。その数は、今日まで二〇〇名以上に上っています。

そのような上海市と旭川荘との交流の中で、一九九〇年、「福祉の翼」の訪中が旭川荘の主催により始まりました。これは、江草安彦旭川荘理事長（当時）が、車いすの生活をしている障害者から海外旅行をしたいという声を耳にされ、来荘された上海市の孫金富民政局長に相談したところ「万全の体制で受け入れたい」とのご返事を頂き、実現の運びとなったのです。

一九九〇年九月、江草旭川荘理事長（当時）を団長とする百三十六名の第一回「福祉の翼訪中団」が、中国東方航空のチャーター機で上海市を訪れ、その後毎年絶えることなく上海を訪問し、今回で二十回を数えることになりました。なお、

訪中の実務的な企画に当たっては、松井三平・岡山市日中友好協会事務局局長のご尽力がありました。

「福祉の翼」の訪中と前後して、「津山国際交流車いす駅伝大会」に、上海市からも参加されることになり、旭川荘はその選手団の援助をさせていただくことになり、上海市から十六回にわたり、百六十名の選手が来岡されました。

これまで、二〇〇三年の「サーズ」騒ぎの際や二〇〇五年に反日運動が起きた時には厳しい判断を迫られました。江草先生の「こういう時期こそ行くべきだ」という英断で、絶えることなく今日まで続いたのです。そして、これまで訪中団の参加者は、延べ二千二百人に上ります。

日中合同レセプション

今回の訪中は、第二十回という節目の訪問となることから、中国側の歓迎体制は従来よりも手厚いものがあり、日中合同レセプションや合同会見は、アジア太平洋経済協力会議（APEC）などの国際会議が開かれた「国際会議センター」で開催されました。



合同レセプションの様子（第20回）

合同会見で、周慕堯前上海市人民对外友好協会会長（元上海市副市長）は、



児童福祉施設での寸劇（第20回）

「二十回続けることは大変なことであり敬意を表したい。医療福祉の理念、介護や看護の技術など、中国の福祉の向上への貢献に感謝したい」と述べられました。また新たに就任された李銘俊上海市人民对外友好協会会長（上海市外事弁公室主任）は、「上海、中国の医療福祉の発展は、日本の協力と無関係ではなく、福祉の翼の役割は大きい」と述べられました。江草名誉団長は、「私たちは中国から多くのことを学んだ。二十回を一つの区切りとして、新たな交流の一步を踏み出したい」と応えられました。

合同レセプションには、これまで「福祉の翼」のお世話をいただいた対外友好協会や上海市民政局の歴代の幹部や担当者の方々も大勢出席され、旧交を温めました。開宴に先立ち、「上海市少年宮」（課外の芸術教育機関）の子ども達による素晴らしい楽器演奏や歌、舞踊が披露されましたが、「七つの子」等の日本語での歌声には、訪中団一同大変感激しました。私はご挨拶の中で、「これまで二十回も続けてこられたのは、上海市人民对外友好協会と上海市民政局の皆さん方のご支援の賜であり、先人の皆様のご尽力に對して、深い敬意と感謝の意を表したい」

と申し上げました。

福祉施設でのふれあい交流

訪中二日目は、「上海市児童福利院」を訪問しました。この施設は、江草先生が名誉院長に就任されており、旭川荘と縁の深い施設です。肢体不自由児や知的障害のある児童のための施設と家庭に恵まれない子供たちの施設（乳児院、児童養護施設）、それに学校が合体した施設で、社会的養護機能とリハビリテーション、教育機能が一体化した総合的な教育福祉施設です。学校も、様々な障害を持つ児童が学び、日本の総合的な「特別支援学校」を先取りした形態と言えます。

見学の後の「日中福祉ふれあいの集い」では、子ども達の「二休さんの踊り」、合唱や器楽演奏に対して、こちらは、中国の子ども達にも人気のあるアニメの主題歌や寸劇「大きなかぶ」などを披露し、最後は、双方揃いの法被を着て一緒に踊り、楽しく盛り上がりました。



老人ホームでの交流会（第20回）

午後は、長寧区にある「逸仙敬老院」という老人ホームを訪問しました。中国では珍しい民間立の老人ホームで、比較的元氣なお年寄りも入居されており、日本では言えませんが老人ホーム



上海万博の準備が進む黄浦江の兩岸

に当たります。老人ホームは郊外に立地することが多いのですが、このホームは市街地にあり、1階には商店が入っていました。

このホームの特色は、ITを活用した情報システムで、入居者の健康データや食習慣や後見人情報、看護状況等が適切に管理されていることです。またTVカメラによる安全管理システムが、ご家族の安心に繋がっているとのことでした。また、趣味の活動のためのクラブ活動も盛んに行われていました。

交流会では、私たちが「大海（ターハイン）」という中国の子守唄などを中国語で合唱したのに対して、敬老院の合唱隊による北京五輪の主題歌や「夕陽紅」の歌が披露されました。また、和服姿での大正琴の演奏に対して、タジギスタンの民族舞踊が披露され、民族色豊かな和やかな交流となりました。

おわりに

「福祉の翼」は、年齢を超えた市民レベルでの草の根交流として、中国の人達と心をふれ合わせ、海外旅行の機会が得にくい障害者の皆さんにもバリアフリーの旅を楽しんでいただく催しとして、関係の皆様のご協力のお陰で、いささかの

貢献ができたのではないかと考えております。第十八回福祉の翼には、透析を受けている方も初めて参加されました。これまで透析が必要のために海外旅行に行きたくても行けなかったそうですが、旅程の間に設備の整った病院で透析を受けることができ、元気に参加されたということもありました。

一方、福祉の翼で培われた絆は、人材養成面での交流などにも繋がって行きました。例えば、上海市盧湾区の支援により一九九八年に旭川荘の「日中医療福祉研修センター」が開設され、二〇〇二年には上海市で「高齢者介護講座」が開催されました。二〇〇四年からは、上海紅十字会と旭川荘が共同で、JICAのご支援も頂きながら「上海高齢者介護教員養成講座」が開催されました。それが、今年度からの江西省における同様の事業展開にも繋がっています。

また、福祉の翼の縁で、教育分野での交流も行われるようになり、上海と岡山の高校生の相互訪問プログラムや早島小学校と上海威海路小学校の交流が始まったと伺っています。同様に女性の交流に関しても、岡山市の「女性交流促進訪問団」に應じて「上海市婦人連合会代表団」が来岡し、「日中女性フォーラム」に参加されたということもありました。このように、福祉の翼の交流の中でまかれた種が、いろいろな所で芽を出して、交流の輪が広がって行っていることは喜ばしいことです。

感恩の心

「研究にご協力くださった日本人乳がん患者様へ」

岡山大学中国人留学生 鮑 静



日本に来てから、心の中で常に恩を感じている。特にこの度、修士論文を進めるにあたり、お忙しい中調査にご協力くださった患者様には深く感謝申しあげたいと思っている。

私は中国の洛陽市からの留学生で、現在岡山大学大学院保健学研究科で看護の修士課程を勉強している。実は、四年前（平成十七年）、岡山市日中友好協会のおかげで、私は洛陽市河南科技大学第一附属病院から派遣され、看護の研修生として岡山済生会総合病院とライフケアセンターで一年間研修させていただいた。そこで日本の進んだ看護理念、看護技術などを見学することができた。中国に帰国してから、中国の看護について再度考え、

そして高度な実践・研究・教育ができる看護人材が足りないという現状をひしひしと感じた。それゆえ、中国における高度な看護実践への貢献のために、高度な専門知識と卓越した研究能力を高めることを目的に、平成十九年十月より私は留学生としてもう一度来日し、岡山大学大学院保健学研究科に入学した。

一方、近年の生活環境や食生活から起こってくるがんなどの生活習慣病が、日本でも中国でも課題として大きくクロージアアップされてきた。特に肥満と関係の深い乳がんは、女性にとって、他の悪性疾患より若年層の罹患率が中国でも年々増えつつあるのが現状である。そこで、今回私は「中国と日本における外来通院中の乳がん術後患者のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）に関する研究」を修士課程の研究テーマとした。研究の対象者は、中国と日本の病院で、乳がんの手術後に外来にて通院治療中の患者様で、今回は五十名の日本人の乳がん患者様に

ご協力をいただいた。

日本人の乳がん患者様にアンケート用紙を配り、同時に一人ずつ十分程度のインタビューも行った。そして、この十分程度の話は、私にとって大変貴重なものであった。患者様は、三十歳代から七十歳代までで、主婦の方や、日本舞踊の先生もおられた。患者様は乳がんと診断された時のショック、治療を受け疾病と戦い、疾病と共に生きる体験、家庭での役割、仕事への責任など、いろいろ詳しく話してくださった。患者様の表情からは、辛かったがん体験をされたにも関わらず、私には強い決心と勇敢な姿しか見えなかった。そして、「中国の方は日本での生活が大変でしょう。お役に立ったかどうかわかりませんが、頑張ってくださいね。」という励ましの声も多くいただいた。更に、アンケート用紙を郵送で回収した時、患者様からは「学業のご成功をお祈ります。」や「収穫をたくさん持って帰ってね。」などの手紙が同封されていた。

私は、感謝すると同時に、本当に感激してしまった。患者様の病氣と闘う勇敢さ及び決心、更に病氣を患いながらも私を励まして下さる親切さなど、一生忘れることのできない体験となった。そして、博士課程も続いて乳がんの研究を行っていかうと考えている。

簡単には、感謝の気持ちをとても表現できないが、今回協力してくださった患者様、いつも私を支えてくださっている先生や友人に中国の歌である「感恩の心」を差し上げたいと思う。

『感恩の心、貴方がいればよかった、一生そばにいてほしい、勇氣をもらって生きていこう・・・』



協議会事務局からのお知らせ

■10周年特別募金活動を継続しています！

10周年特別募金につきましては、経済団体はじめ、多くの方々から寄せられ、本当に感謝しています。引き続き募金活動を継続しますので、皆様のご協力をお願いします。

■調査協カ-ワーキンググループスタッフ募集！

岡山県下の学校と中国との交流実態調査の分析をし、次号の悠久にて調査報告を掲載します。この分析をしていただく方々を募集しています。ご協力いただける方は事務局までご一報ください。

■上海万博に行きませんか？

来年（2010年）5月1日～10月31日の間、上海市内の黄浦江をはさんだ兩岸を会場に開催される上海万国博覧会。すでに中国館や日本館が姿を現しています。この博覧会の受け入れ準備のため、当協議会と交流関係にある上海市人民対外友好協会からの連絡では、万博来場を希望している団体の集約をしています。（本年12月までにノミネート必要）万博では会期中7000万人の動員目標を立てておりますが、中国政府館、日本政府館、日本産業館などの人気パビリオンは混み合うことが予想されます。協議会の訪中では友好交流の実績から特別配慮が期待できます。協議会会員の皆様、また学校や教育関係で、参加希望の団体及び個人の方は事務局までご一報ください。

■中国語を学びませんか？ 協議会会員は申込金免除の特典！

協議会の事務局の隣で、「岡山中国語センター」が開講されています。日中相互理解にはなんと言っても言葉が話せないといけません。英語と中国語はこれからの時代に欠かせない言語となるでしょう。お申込み・お問い合わせは事務局まで。

◎中国語クラス

ク ラ ス	曜日	学 習 程 度	開 講 期 間	時 間
入 門 ク ラ ス	木	初 心 者	2009年10月1日～2010年3月25日	18:30～20:00
初 級 ク ラ ス	金	1～2年程度	2009年10月2日～2010年3月26日	18:30～20:00
中級Ⅰクラス	月	2～4年程度	2009年10月5日～2010年3月29日	18:30～20:00
中級Ⅱクラス	水	2～4年程度	2009年10月7日～2010年3月31日	18:30～20:00
上 級 ク ラ ス	火	4 年 以 上	2009年10月6日～2010年3月30日	18:30～20:00

協議会事務局 〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階
電話：086-225-5083 FAX：086-225-5041
http://www.oka-rizhongyouxie.jp/index_04.htm
メール：oknittyu@yahoo.co.jp

担当：松井、平野

旭川荘厚生専門学院

●旭川キャンパス

児童福祉科

第一看護科 第二看護科

〒703-8560 岡山市北区祇園866

電話(086)275-0145

FAX(086)275-3283

●吉井川キャンパス

介護福祉科

福祉研究科

精神保健福祉科

〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610

電話(086)944-6911

FAX(086)944-6922



岡山商科大学孔子学院

21世紀はアジアの時代、中国語を学ぶ絶好のチャンスです。

中国政府認定講師による中国語講座開催中!

☆HSK3級合格を目指す長期生コース

15週学習を通じて、2010年3月・6月のHSK試験(中国語能力認定試験)3級合格を目指します!

※会社や団体への出張講座も開講中!

・お問い合わせ/お申し込みは

岡山商科大学孔子学院 〒700-8601

岡山市北区津島京町2丁目10-1

TEL 086-252-0642 FAX 086-255-6947

<http://www.osu.ac.jp>

中国語講座日程(2009年後期)

クラス	曜日
入門Ⅰ	水(昼・夜)
入門Ⅱ	火・木(夜)
初級Ⅰ	金(夜)
初級Ⅱ	火(夜)・水(昼)
上級Ⅰ	木(夜)

学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院(現代生活学研究科)

中国短期大学

●総合生活学科

●保育学科

●英語コミュニケーション学科

●音楽科

●情報ビジネス学科

●専攻科

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993

<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail gakusei2@cjc.ac.jp

岡山理科大学附属 中学校 中高一貫コース!



学校法人 加計学園 岡山理科大学附属中学校

〒700-0005 岡山市北区理大町1番1号

TEL.: (086) 256-8517

FAX.: (086) 256-8518

学校法人 加計学園 中高入試広報室

TEL.: (086) 256-8527

FAX.: (086) 256-8526

E-mail: kouho@ridaifu.ed.jp



(財)全国高等学校体育連盟協賛
インターハイ協賛



(財)日本中学校体育連盟推薦
財日本中学校体育連盟シボルマーク付

kanko
カンコー・スニーカーウェア
カンコー・スニーカーウェア

ELLE

MICHEL KLEIN

Sprinter

Reebok

SPALDING
TRUE TO THE GAME

OZAKI

尾崎商事株式会社
岡山営業所

〒701-0206
岡山県岡山市南区山田2316-28
TEL 086(292)8255
FAX 086(292)8266

尾崎商事株式会社

<http://ozaki.jp/>

本社 〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町15番1号 岡山リットシティビル5F
お客様相談室 0120-712983

赤ちゃんからお年寄りまで
一人ひとりの「よく生きる」のために。


Benesse®

事業領域

教育・生活・シニア・介護・語学・
グローバル人材教育

くわしくはホームページをご覧ください。

<http://www.benesse-hd.co.jp/>

株式会社ベネッセホールディングス

岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
東京本部 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34

Benesseは、ラテン語の「Bene(よく)」と「esse(生きる)」を一語にした造語です。

学校法人 志学学園／眼鏡技術専門学校

ワールド オプティカル カレッジ

メガネに関する「専門知識」と「最新技術」を修得した
スペシャリスト 眼鏡技術者を育成

第一眼鏡科：高校卒業以上 3年制

第二眼鏡科：専修学校・短期大学卒業以上 2年制

(学校見学は随時受付けております)

〒703-8282 岡山市中区平井6-6-11 TEL:086-272-5566 FAX:086-272-4422 0120-88-8233

<http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

おかげさまで20周年！

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク！

- 岡山発着航空機の手配いたします！
中国東方航空で上海・大連・北京へ！
大韓航空で韓国ソウルへ、仁川空港経由で中国各地へ！
- お得なパッケージツアー（上海・大連・青島・など）
- 特徴あるこだわりのツアー
シルクロード、チベット、雲南、内蒙古など
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい

 アジコム+ツアー



株式会社アジア・コミュニケーションズ

ASIA.COM 観光庁長官登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認

岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F(〒700-0902)

TEL (086) 222-7722 FAX (086) 222-7732

<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第30号

発行：平成21年11月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社